



AA日本ニューズレター

No.150

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

常任理事会の上半期総括

AA日本常任理事会 議長 野田

東北震災で被災されたメンバーやご家族の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

そして、被災直後といってもいいような時から仙台でミーティング活動が始まったという報告は、はたで見ていただけができない私のような者にとっても、一縷の望み、AAの力強い息吹を感じさせていただく出来事でした。

上半期の常任理事会の活動を総括せよというテーマをいただきましたが、個々の活動を総覧することは私の任ではなく、改めて各担当より報告されてしかるべきものと思います。したがって私の報告は、総括というより概略的な私の感想をお伝えする程度にとどまるかと思いますがお許しください。

まずJSOのことに触れさせていただきたいと思います。

本年は増田さんを所長代行に迎え、ここ数年の課題だった、会計原則に則った会計システムの構築ということに着手しました。現場は大変なご苦労を重ねられ、立派な成果を出していただきました。3月には新井さんが入職され、早速ボックス発送のシステム改善に取り組み、グループサービスの重要な仕事を担ってくださっています。金沢さんは翻訳や出版にかかわる作業の傍ら、忙しく電話対応などにも活躍されています。また、ノンアルコールの村田さんは、パートタイマーですが主に会計処理や財務・労務の全般にかかわっておられ、時に増田所長代行もやり込められるほど素晴らしい能力を発揮されています。発送業務にはアルバイトの吉村さんがボランティアの協力も得ながら当たって下さっています。

一方、非常に残念なことですが、前野崎所長が退職されました。いつも穏やかに、AA全体に愛情を注いで下さっていたお人柄とその功績を私は忘れることができません。

JSOはここ数年の混乱から脱して、常任理事会としても『ようやくここまで来た』という感を深くしています。

常任理事会全体としてはやはり波乱の上半期だったという感想です。

2月の全国評議会で常任理事の一人が不信任を受け退任するということが起こり、理事会構成メンバー全員が衝撃を受けたものと思います。経過とその評価については様々にご意見があるところでしょう。私としても、コミュニケーション不足などについて反省させられました。常任理事会ははたしてフェロシップに対して有益なのだろうか、ひょっとしたらAA日本の現状にとって不必要な存在なのではないか、というような自問が胸中に去来したことを覚えています。その後の補充選挙において立候補資格をめぐる混乱があり、対応に追われました。今もって何が正解なのか正直なところ私には良くわかりませんが、多くの評議員さんから意見をいただき意見交換をさせていただきました。AOSM報告書に記載があり「なるほど」と思ったのですが、AAのことは語れば語るほど真実に近づく、と

いうことだそうです。理事も評議員さんも、沢山の人が真剣に評議会憲章や常任理事会準則に目を通されたものと思います。この経験はきっと私たちの将来にとって有益なものとなってくれるでしょう。

それはそれとして、一時欠員になった理事の穴を埋めることは正直大変でした。やはり現状では6人のB類理事というのは必要な人数だと実感しています。

今年上半期は震災の影響により収入減が見込まれたため、随分と財政面の心配をしました。節電でミーティング会場が使用できなかったようなケースも沢山あったようです。幸いにして献金額そのものはほぼ半年並みの推移をたどっているようですが、書籍頒布の減少が顕著です。いずれにしても対予算比では80%程度の達成見込み、当年は400万円弱の赤字が発生する可能性があります。

そもそも全体サービスの財政には構造的な問題があるようです。この10年にわたって1千万円程度の資産が減少しています。基本的な赤字構造を、書籍の再販引当金として積み増してきたものを取り崩したり、大型の新規出版で収入を確保したり、あるいはボックスの値上げをお願いしたりというような形で補ってきたものです。

毎年の予算は全国評議会で承認されているものですし、私たちが共同の清貧という理念を掲げている以上、お金の心配からは逃れられないのかもしれない。しかし、恒久財源ともいえるべき献金によって支えられ得る全体サービスの姿にしていけないと、そろそろそういう方向に舵を切らなければ、将来に対して不誠実であるのかもしれない。バランスの問題で難しいことではありますが、評議員さんを中心に大いなる議論をお願いしたいところです。この問題については常任理事会自体も、管理者として継続的な問題意識の発信が弱かったことを大いに反省しています。

ちなみにこのままの状態が継続されるとすると、来年6月には資金ショート(破産)するとのことでした。

その他の現実的な課題もいろいろ見えてきました。

震災で直面した問題は、例えば首都直下型の地震が起きた時にAAの財産をどのように守るかということです。長年にわたって培われてきた経験はオフィスのシステムに集約されているので、外部にバックアップを設ける必要もあるでしょう。出版物のデータを遠隔地に保存する必要もあります。災害など突発的な事態に柔軟に対応するためには、常任理事会は基金を持つ必要もあります。

NPO法人格をめぐることは、新たに労働組合対応の問題なども発生しており、法人実務に詳しい法人理事または全体サービス常任理事がいよいよ必要になってきたと感じています。法人格を取得して社会的な認知を受け、現実社会の法体系とのすり合わせというような社会的な責任も拡大しています。

当初先行く仲間が苦勞して設計した制度そのものが転換点に来ていて、このことが大きな問題と私は感じています。家内

工業的なありようから、常任理事会はグループの良心による指導を受けて社会システムとの整合を図りながら、現実社会への浸透を目指していく困難な課題を抱えています。常任理事会自体も少し組織的に運営される必要があるのですが、その有効なシステムを構築することも容易ではありません。

試行錯誤を繰り返しながら、なかなかご期待に沿える活動はでき得ていないと思いますが、皆様の変わらぬご支持をお願いするしかありません。

第4回全国評議会の時だったと思います。私は書記として参加させていただいていました。全体会議は財政問題を巡って白熱し、容易に終わるような様子はありませんでした。夜11時、会議室の使用期限が訪れ、ガードマンにより評議員の皆様は議場から追い立てられ会議室は施錠されてしまいました。私はその後の光景を今も忘れることができません。廊下に立ったまま、当時の財務担当理事を二重三重に囲んで、多くの評議員のみなさんが熱い分かち合いを継続されていました。

暗い話ばかりたくさん書いてしまいましたが、皆様の参加があればAAは大丈夫です。

以上、上半期総括に代えて。

+++++

第9回アジア/オセアニア サービスミーティングに参加して

WSM 後期評議員 今井

第9回アジア/オセアニア・サービスミーティング(以下AOSM)が7月22日(金)から24日(日)の3日間、「目的の単一性」をテーマにインド北西部のチャンディガールにあるノースパークチャンディガールホテルで開催されました。AOSMとは2年に一度アジア・オセアニア各国の評議員たちが次の目的の下、分かち合う集いです。

アジア/オセアニア・サービスミーティングの第一の目的は、アルコール・アノニマスのメッセージをまだ苦しんでいるアルコールに運ぶことである。

アジア/オセアニア・サービスミーティングは、アジアとオセアニアの全地域帯から集まる評議員たちが、それぞれ代表する国の経験と力と希望を分かち合うためのフォーラムを設けることによって、その目的を達成する方法を模索する。

それはまた、この地域帯すべてのグループの良心を代表し、ワールド・サービスミーティング(WSM)に代表を送ることのできない国のために、WSMへつなげる道を提供する事ができる。

経験の示すところによれば、健全なサービス機構があれば、メッセージをより効果的に伝えることができる。アジア/オセアニア・サービスミーティングは、それぞれの国の必要性に応じた健全なサービス機構の計画を援助し、それぞれの言語や書籍、機関の活動を通じて、アルコールに伝えられるAAサービスが拡大するように援助する。

AOSMは、いかなるAAのサービスやグループにも権威をもつものではないことを認める。

AOSMが決定するものは、このミーティングに影響を及ぼす事柄においてだけである。

今回の参加はオーストラリア(2)・ブータン(1)・香港(2)・インド(2)・日本(2)・ニュージーランド(2)・ネパール(1)・極東ロシア(1)・シンガポール(2)・スリランカ(1)・タイ(2)・クウェート(1)・ドバイ(1)(以上順不同)

過去最高の13カ国、20名の評議員でした。新しい参加国はスリランカとドバイです。その他AOSM事務局からはセクレタリー、議長の2名、オブザーバーとしてNY GSOから国際担当のダグ・R、オーストラリアGSOから所長が参加されました。今回13カ国の内、在留外国人が評議員として参加した国は香港、クウェート、ドバイの3カ国でした。スリランカから仲間が、そして開催国であるインドの常任理事たち数名がオブザーバーとして参加していました。参加国どの国でも財政的問題を抱えています。AOSMや他の国の援助を受けて参加ができた国もあり、又自費で参加してきた評議員もいました。自国の中の苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶことに前向きになっている証ではないでしょうか。会議では、各国の現状報告、その土地の人々にいかにAAのメッセージを運べるか、AOSM構造について、出版物の翻訳等について活発に分かち合いがなされました。分科会として外部協力、開催地選定/議事/ウェブサイト、書籍/出版、方針/承認/財務の委員会も活発で有意義なものでした。



AOSMでは毎回のようにテーマにのぼる「言葉や文化の壁を乗り越えてどう現地の人にメッセージを伝えるか?」について活発に分かち合いがなされました。ある国では、警察の協力でバスにポスターを貼る事ができた。効果がどのくらいあるかは把握していない。またある国では、小さい田舎の村に出かけて行き、広場村中の人に集ってもらい、そこでAAの紹介をする。

今回参加されていた国々の中ではタイが躍進的にメンバーが増えていました。第7回の際は英語グループのメンバーが参加されていたのですが、第8回AOSM後、着実にグループとメンバーが増えたそうです。また他の国々も僅かではあっても、メッセージの甲斐があつて増えつつあるそうですが、幾つもの言語がある国が殆どでなかなか全言語に対して対処できないのが現状のようです。

この言語の問題は出版物の翻訳にも掛かってきています。どのような手順で翻訳、出版するのもわかっていない国があり、オブザーバーで来られていたNY GSOのダグ氏より詳しく説明を受け、翻訳、出版に希望を持ったようでした。アジアで日本のように一言語、一民族、そして宗教の自由の国は他にありません。いかに私達が恵まれているかを再認識させられ、感謝の念を新たにいたしました。

日本の皆さんはご存知だと思いますが、毎年6月10日を挟んで国際協力献金を実施し、その一部を国際出版基金に献金させていただいています。その献金がAA出版物の翻訳、出版に役立っています。そして多くの仲間が出版物を手にする事ができています。まだ出版物の届いていない国がたくさんあります。今後とも宜しくお願いいたします。

アジア/オセアニアでサービス機構を持っている国はわずかです。今回の参加国中ではオーストラリア・ニュージーランド・インド・日本の4カ国です。日本のAAも問題を抱えていますが、サービス機構の構築を今後アジアの国々が計画をしたときには少し先行く日本が見本になれるよう、そして手助けできるようにしておきたいと感じました。詳細については、日本語に翻訳される報告書をお読み下さい。

近隣国へのメッセージについても分かち合いました。オーストラリアはサモアへ、インドはネパール・ブータン・バングラディッシュ、パキスタンに運んでいます。バングラディッシュにはいくつかのグループができています。パキスタンにはメンバーが少しはいるもののグループはない。この国は宗教の教養で飲酒は禁じられているのでミーティングは家の中でこっそりとしている。今はインドGSOがコンタクトを取っている。

その他女性のメンバーが増えないがどのようにメッセージを運んだら良いのだろうか？メッセージにいてもお酒の問題を言うと門前払いをされてしまう。どうしたらうまく伝えられるのか？といろいろ問題はありますが、真剣に、しかし決して深刻にならず前向きに考えています。「目的の単一性」ももちろん私達の最終目的はまだ苦しんでいるアルコールにこのメッセージを運ぶこと。これを忘れてはならないという思いを深く肝に銘じました。

アジア/オセアニアにおけるこのプログラムの愛とサービスは着実に根付いてきています。このプログラムが多くの苦しんでいるアルコールに届きますように。

東日本大震災の現状の話をしていただき、災害時のガイドラインを持っているか質問をしたところ、日本の経験を元に日本が作成してはどうですか？と宿題をいただけてまいりました。皆様の協力をお願いしたいと思います。

今回は2013年にロシアのイルクーツクで開催されます。バイカル湖の近くで美しい町だそうです。オブザーバー参加OKです。自分の心、目、体でアジアの鼓動を経験してみてください。

+++++

「佐渡グループ1周年の集い」に参加して

神奈川県央地区 はじめ

今年8月6日に佐渡グループ1周年の集いがあり、参加してきました。「集い」は両津港に近いホテルで行なわれ、参加者は主に新潟地区のメンバーと首都圏から来たメンバーで、総勢50～60名程度でした。佐渡グループのメンバーは2人、ミーティングは毎週1回土曜に両津港そばの会場で行なっているとのことです。

佐渡グループは北新潟グループや新潟地区の応援で出来ました。ミーティングには地区からの参加もあるそうですが、ミーティングが終了してから新潟市まで帰る船舶がなく、1人でミーティング場を守ることも多いようです。

佐渡島は日本では沖縄本島に次ぐ島で、現在、島全域が佐渡市になっており人口は6万3千人、面積は東京都の約半分程度です。島内の公共交通機関はバスだけで、新潟市との間は船舶で結ばれているだけですから、島外からミーティングに参加するのも毎週という訳にはいかないと感じます。首都圏のようにミーティング通いに困らないメンバーには想像もつかない苦労があるように感じました。

私が昨年、佐渡島でミーティングが出来るようになったと聞いたときに想い出したのは、5年前に東京で開催された「第1

回援助職向け広報フォーラム(関東甲信越セントラルオフィス主催)終了後に、佐渡島関係の援助職の方から「佐渡島にもアルコールで苦しんでいる人たちがいます。何とかAAのミーティング場を作ってください」と話しかけられたことです。すぐに新潟地区のメンバーに聞いてみたのですが、その時はまだ力が及ばないようでした。気になっていたことだったので、今回は本当にうれしかった。新潟地区が年々大きく力強くなってきているのは感じていました。ここまで来てよかった。地区の皆さんの努力、地元関係機関のご協力のたまものと思います。

私の知る限り日本の島しょ(とうしょ 大小さまざまな島のこと)で、AAグループがあるのは沖縄本島を除いて屋久島グループだけでした。(今は種子島にもあるようです)

沖縄本島以下、日本における大きな島は佐渡島、奄美大島、対馬、淡路島、屋久島などです。佐渡島で定期的にミーティングを開くグループができたことは、大きな意義があると思います。東京都の島しょ部である大島、八丈島、三宅島などにもAAのミーティング場がまだありません。面積は小さいものの人口は島としては多く首都圏に近いのに、まだないのです。出身者は首都圏にいて、メンバーもいます。ミーティング場を島に作るという動きがない訳ではないのですが、まだ小さな動きです。

日本は島国ですが、島しょにAAミーティング場を開くのはたいへんです。それを維持発展させるのはもっとたいへんです。しかし、今苦しんでいる仲間メッセージを運ぶこと、それを少しでも手助けしていくことは私たちの努めだろうと思います。その意味でも、佐渡グループの継続発展を祈り、応援できることはしていきたいと思っております。

+++++

2011年ラウンドアップより

+++++

AA中四国ラウンドアップ in 岡山

2011年AA中四国ラウンドアップ実行委員 小橋

今回の中四国のラウンドアップは「気楽にやろう、でもやろう 生きてるうちが花なのよ」というテーマで、8月26日から3日間の開催でした。神さまとすべてのAAグループ、参加していただいた仲間と関係者のみなさん、国民宿舎のスタッフ、バンドのメンバーたちに感謝をいたします。ありがとうございます。

昨年の夏の地域集会で、2011年の岡山での開催が快く受け入れられたのを頼りに「大丈夫、いざとなったら仲間に助けを求めればなんとかなるさ、それがあなたの意志ならば。だってそれがAAじゃないか」と都合よく自分たちに言い聞かせ、2010年松江での参加を皮切りに、実行委員会を何度か開き、セントラルオフィスに助けを求め、会場となる国民宿舎に通い、ラッフルの景品を選び、プログラムの確認をし、バンドの手配やお菓子や飲み物を買ひ、予算をやりくりしつつ、ときにはどうかラウンドアップなんて早く終わってくれと祈ったりもし、そうは言ってもじつに気楽に当日を迎えました。「大丈夫、あとはなるようになるさ、仲間とハイパーパワーにゆだねていればそれでよし。あなたの意志が行われますように」と、どこまでも都合よく考えて3日間を楽しみながら無事に終わることができました。

正直に言いますが、地元岡山の仲間たちが参加してくるどうかそれが一番大きな心配でした。ラウンドアップは、われわれ岡山の仲間たちがその準備と開催を通して自分たちのAAに対

する姿勢を、どんな形であるにせよ表さずにはいられなくなってしまうのでした。われわれ実行委員会はそうなることを承知で地元の仲間たちを良くも悪くもラウンドアップというものに巻き込みたかったのです。

今回の経験でまだまだ未熟なわれわれのグループは少なからず動揺を引き起こしました。しかし、グループが再びラウンドアップ以前の状態に戻ってしまうのであれば、そのように受け入れるだけですが、この動揺を契機にグループとしての成長が図られるように仲間と考えてみたいと思います。AAは共同体であり、自分たちのグループだけでなく、地域やより広い日本や世界のAAにつながっているのだということがAAの大きな力であり希望なのだと思っていてこれからはやっていきたいと思っています。

「私たちの旅の目的は日常の生活からしばし抜けだして、別な形で結ばれている自分たちを確かめる機会であったようにも思われるのである」と歴史学者の阿部謹也さんは仲間たちとの旅について書いています。今回参加していただいたみなさんも、「目に見えない絆で結ばれている人間と人間の間を再確認」されたのではないのでしょうか。われわれ実行委員も今回の経験を通して、各々それぞれお互いのAAに対する姿勢や関係をはっきりと形として確認することができました。今自分たちが置かれている場所とあり方を確かめながら感謝とともに、サービス、回復、一体性へと次のステップを進むことができますように。

ありがとうございます。

+++++

AA東北ラウンドアップ in 山形

AA山形グループ ユキ

今年9月10日～11日、山形では11年ぶりのラウンドアップが開催された。山形では、4月にオープン・スピーカーズ・ミーティングが行なわれ、東日本大震災から半年後のラウンドアップと、節目、節目でイベントが行なわれることになった。オープン・スピーカーズ・ミーティングとは違い、正直そんな大きなイベントが山形でできるかどうか、大きな不安を抱えながら準備を進めていったが、東北の多くの仲間の力を借りて、無事に終えることができた。参加者は、AAメンバーが170名以上、関係者は20名以上と大盛況だった。こんなに参加してもらえた嬉しさもあったが、実行委員の多くは、終わったことにホッとして、充実感というより、安堵感と疲労感が残らなかった。ピンクの雲に乗るところか、乗る気力も残っておらず、目の下にはクマができ、当日夜のグループ・ミーティングに参加するのがやっとだった。

幸い今のところ誰もスリップしていない。山形のメンバーは、なんとというか、人前に出るのが苦手。言い換えると、奥ゆかしいのである。私自身8年半のソーバー後にスリップし、生死をさまよい、札幌から山形に戻った。札幌でミーティングに行かなくなってから3年が過ぎていた。ラウンドアップで札幌の仲間と再会し、「生きていて良かった」と言ってもらえ(涙) 私的にはラウンドアップの奇跡としか思えなかった。

今年のテーマは「希望・へこたれないぞ東北」。あれから半年が過ぎ、亡くなった仲間、家族や家を失った仲間、避難民になった仲間。ミーティング場もなくなったグループもある。常識では考えられないようなことがたくさんあったが、私たちは生きている。福島の仲間が言っていた。「私たちは生きなければならぬんだ！そういうふうには生かされたんだ！」と。涙が止まらなかった。遠くからは北海道、大阪、愛知、関東。多くの仲間に参加してもらい本当に感謝。

私たちはサバイバーだ。AAにつながり、生きていく方法を見つけた。ならば生きていこう！サバイバーらしく。

ラウンドアップから少しの時間が経過し、少しづつ充実感がでてきた。ラウンドアップをやって良かった。多くの仲間に出会い、希望をもらい、へこたれない勇気をもらった。本当にありがとう。

最後に、山形名物「芋煮」の味はどうでしたか？また山形に足を運んでいただければ……。

+++++

『ドクター・ボブと素敵な仲間たち』特販のお知らせ 期間限定キャンペーン

(2011年11月1日～2012年1月31日)

2,940円 1,980円

+++++

むずかしい本と誤解されているようですが、実は、ユニークな話が盛りだくさんの楽しい本です。たとえば、ビッグブックにまつわる話には、「妻の章」を書かせてくれなかったビルに妻ロイスが腹を立てていたとか、出版をめぐる飲んでしまった人がいたとか、体験談の一つが作り話だったなど。



ミーティングについては、酒のにおいをチェックする人が入口に立っていたとか、女性アルコールが妻たちに追い出されたとか、12番目のステップ活動のせいで殺人事件が起こったことなど。

他に、ボブの名言をちょっとだけご紹介しましょう

「用意ができていない人と一緒にやらない。そうでない人からは離れたほうが賢明だろう。なぜなら、その人は、まだ酒をやめる気にはなっていないからだ」「アノニミティを大事にするあまり、ほかの酔っぱらいが連絡をとろうと思ってもできないようにしてしまうことは、公的レベルで個人名を明かす人とおなじように、伝統に違反している」「15分を超える話は繰り返しになってしまう。15分より長くなれば、救われる魂も救われない」 など。新しいアイデアが得られるかもしれません。

お求めは、お近くのセントラルオフィス、またはJSOまで。

編集・発行： NPO法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休